ニシザワショッパーズ店舗用地造成事業に伴う発掘調査報告書

神送り・神送り南遺跡発掘調査報告書

１９９９．１２

長野県辰野町教育委員会

例　　言

１．本書は、ニシザワショッパーズ店舗用地造成事業に先立って実施した長野県上伊那郡辰野町大字平出2068番地１他に所在する神送り・神送り南遺跡の試掘調査報告書である。

２．試掘調査は株式会社ニシザワ代表取締役荒木茂と、辰野町教育委員会教育長一ノ瀬健二との委託契約に基づいて実施された。

３．試掘調査は平成11年10月４日～平成11年10月14日まで現場作業を行い、この期間中に遺物洗浄及び注記を実施した。

４．試掘調査現場における記録は福島永が担当し、トレンチ等の実測図作成は、大森淑子・早川裕美子福島が行った。また、本書の作成は福島が行った。

５．調査及び、遺物整理にあたって作成された実測図・写真等は出土遺物とともに辰野町教育委員会が保管している。

発掘調査体制

調査主体者　　一ノ瀬健二（辰野町教育委員会教育長）

事務局　　林和男（辰野町教育委員会生涯学習課長）

山崎千束（辰野町教育委員会生涯学習課長補佐）

三浦孝美（辰野町教育委員会生涯学習課文化係長）

福島永　（辰野町教育委員会生涯学習課文化係）

発掘調査協力者

大森淑子・坂西むつみ・早川裕美子・宮沢英子・山崎誠

整理作業協力者

赤羽弘江・大森淑子・佐藤直子・竹内みどり・村上茂子

目　　次

第１章　発掘調査の経緯 …… 1

１　保護協議の経過 …… 1

第２章　位置と環境 …… 1

１　地形・地質 …… 1

２　歴史的環境 …… 2

第３章　発掘調査 …… 4

１　調査の方法と調査結果の概要 …4

第４章　試掘調査の結果 …… 4

１　神送り遺跡 …… 4

２　神送り南遺跡 …… 5

第５章　まとめ …… 5

写真図版

第１章　発掘調査の経緯

１　保護協議の経過

平成11年８月に、ニシザワより辰野町役場あてにニシザワショッパーズ建設にあたり協議書が提出された。この協議書は店舗を建設するにあたり、どのような法的な規制があるか等を確認するするためのものであり、教育委員会では建設予定地が神送り遺跡・神送り南遺跡の包蔵地であり、試掘調査等の保護措置が必要な旨を回答した。

その後、ニシザワの委託を受けた創和設計から遺跡調査についての問い合わせがあり、試掘調査が必要なため、至急発掘届けを提出するように指導すると共に、計画している店舗造成事業及び建設する店舗の概要について、設計図等での説明を求めた。

８月になり、開発計画の説明があった。それによると開発面積はおよそ5,000㎡で、店舗用地はすべて地表から約２ｍから３ｍほどの盛土であり、店舗の基礎についても埋土以下には及ばないことが判明した。これにより、本調査の必要はないが、試掘調査を実施して遺跡の状況だけ把握する必要があることを説明し、理解をもとめた。

９月30日にニシザワをまじえての保護協議を実施し、店舗を３月に完成させたいため試掘調査を３日間で終了させてほしいとの要請があったが、調査自体にかかる日数は10日前後は最低必要な旨を説明しできるだけ早く終了することで合意した。また、発掘届が提出されたのをうけて、意見書を添付し10月15日に長野県教育委員会に届けを提出すると共に、10月４日より試掘調査を開始した。

第２章　位置と環境

１　地形・地質

辰野町は、西を木曾山系にあたる経ヶ岳山脈（標高2,296.3 m）より連なる標高1,100 m以上の６つの山塊が占め、東には伊那山脈の北端部が延びている。伊那山脈は天竜川の支流の一つである沢底川を境として南部は標高1,100 m～1,200 mの小式部城山塊、北部は標高800 m～1,000 mの東山丘陵に二分されており、東山丘陵は辰野町で最もなだらかな丘陵状の山地となっている。

辰野町は伊那谷の最北部ということもあって、山地が全面積の約７割を占め、平地部は３割程度しかない。したがって東山の麓から西山の麓までの幅が狭く、また、多くの段丘によって地形的な制約をうけている。しかし、町南部の羽北地区では平地部が大きく開け、箕輪町へと続いている。

また、辰野町北部の市町境界付近を含めた権兵衛峠－経ヶ岳－牛首峠－霧訪山－善知鳥峠の連なりは南北分水界となっており、これより北部は千曲川水系として日本海へと流れ込み、南部は天竜川水系として太平洋へ注ぎ込んでいる。

一方、諏訪湖に源を発する天竜川は、両岸に数段の段丘に挟まれて町を南北に縦断するように南流している。この段丘は以前は天竜川の浸食によって形成された河岸段丘と考えられていたが、現在では断層崖であることがわかっており、この断層崖の最低部に天竜川が流れていると考えられるようになっている。この断層崖の山麓部には扇状地の発達が顕著であり、特に楡沢山～桑沢山山麓では、扇状地が重なりあった、複合扇状地が形成されている。

天竜川西部の経ヶ岳を源流とする横川川や、町内の天竜川の支流としては横川川に次ぐ流路距離を誇る小横川川の上流部では、横川渓谷に代表されるようなＶ字谷が深く入り込んでおり、下流では川幅がひろがって小規模な谷底平野・段丘・崖錐が発達している。

また、伊那盆地の西部や東部山麓には大きな断層線が走っており、特に西部山麓の断層は「伊那谷断層」と呼ばれ、後山地籍においては断層によって尾根が孤立し、稗塚と呼ばれる丸山が形成されているほか、西方の明神山は古い扇状地が活断層によって持ち上がったものである。さらに、新町の上水道水源地の掘割では昭和４年に春日琢美によってテフラを切る断層が観察され、スケッチに残されているが、このスケッチをみるとテフラの降灰が停止してから15,000年の間に西方の山地が約2.3 ｍ上昇したことがわかる。また、新町の天竜川河畔の赤渋より、天狗坂を通って宮所、上島を結ぶ線は赤渋断層と呼ばれ、宮木の大新田より原田地籍へ上がる坂で、断層によって原田の地盤がはね上がった様子が観察されている。

神送り・神送り南遺跡は東山丘陵の西部にあたる第２段丘面上に位置しており、この付近は塩嶺累層の上に平出層が堆積し、その上に新期テフラがの上部をのせている。また、豊南女子短期大学の造成時には西落ちとなる逆断層が観察されている。

２　歴史的環境

平出地区は絶文時代草創期より奈良・平安時代まで比較的多種多様の遺跡が存在している。縄文時代を代表するものとしては平出丸山遺跡が挙げられる。この遺跡は現在の平出保育所の改集工事に伴って昭和57年から昭和58年にかけて調査が実施された。その結果縄文時代後期の石棺基群が出土し、さらに石棒なども発見され特珠な性格を持った遺跡であることが判明した。

またこの下層からは縄文時代早期の集右炉や、草創期の表裏縄文が出土している。

昭和40年代に御茶屋敷遺跡では現在の味噌工場の用地内で、縄文時代中期初頭の土器が百数十点出土し、炉址かとも考えられる焼土が数ヶ所から発見されている・また前期の中越式土器も出土している.

大石乎遺跡は上野川が平出の扇状地へ出る手前の右岸の山地にあり、すり鉢状の大規模な窪地の南縁付近に分布しており昭和59年に住宅用地造成に伴って調査が実施され、遺構は確認されなかったものの組文時代中期初頭の土器片が多数出土している.

昭和48年に中央道の建設に伴って調査された上平出堂ヶ入遺跡では、縄文時代前期末葉の住居址2基、土坑8基と、中世の墓が出土している.

弥生時代の遺構は現在、半平蔵遺跡で住居址が1基出土しているにとどまっている.　古墳時代は重要な遺跡が分布している.なかでも半平蔵遺跡は26基以上の住居址が出土しており、このうち3基の住居址からは滑石製の臼玉がそれぞれ1個づつ出土しており、他の1基では金環が出土している.またこの遺跡の東方には平出古墳群があり、半平蔵遺跡との関係が考えられている.また半乎蔵遺跡では古墳時代の住居址のはかにも奈良・平安時代の住居址が17基と、整然と並んだ掘立柱建物が発見されている.

平出古墳群は平出区上町の見宗寺周辺に存在していたと考えられるが、現在墳丘の残っている古墳は御陵ヶ塚古墳1基のみである.この古墳は直径20mの円墳であり、南側には横穴式石室の一部が露出している.

御社宮司古墳は明治14年の開田の際に削平され、石室の下部が残されているのみであるが、副葬品は保管されており、水晶製勾玉1点、メノウ製勾玉6点、水晶製切子玉2点、金環1点、銀環2点、鉄製轡、環状鏡板、●具、鉄地金銅張の辻金具、雲珠、杏葉、鐙、頭推大刀の柄頭片のほか直刀4本が現存している.

このほか「先史及原史時代の上伊那」によると、山の神古墳、見宗寺境内の古墳が遠景写真付で載っており、更に見宗寺畑、中村ノ畑の2ヶ所があげられ、山の神古墳からは轡2、3組と直刀片5点が出土していると伝えられている.

上平出の前沢川上流の山麓に分布する沢入口、沢頑、藤の森の各遺跡では平安時代の住居址がそれぞれ5基・1基・1基出土しており、灰釉陶器を伴うこれらの住居址からは鉄製品も出土しており、山ずみ集落が存在していたと考えられる.

No.	遺跡名	縄文	弥生	古墳	奈良平安	中世以降	No.	遺跡名	縄文	弥生	古墳	奈良平安	中世以降
135	原田	○			○		157	中山	○				
136	平出日向	○					158	神送り		○		◎	
137	平出山の神	○			○	○	159	源平治	○	○		○	
138	御社宮司	○			○		160	池の久保	○			○	○
139	越道	○	○		○		161	経塚	○	◎		◎	
140	宮の上	○			○		165	赤羽上の原	○				
141	大窪	○					166	板橋	○				○
142	公家塚	○					168	南久保窯					○
143	牧垣外	○			○		207	神主谷	○				
150	平出丸山	◎					210	堀の内	◎	◎		◎	◎
151	中村裏	○					212	御社宮司古墳			○		
152	半平蔵	◎	◎	◎	◎		213	御陵ヶ塚古墳			○		
153	御茶屋敷	○					216	神送り南	○			○	
155	平出宮ノ前	○					219	洞田				○	○

周辺遺跡一覧表（○は遺物出土、◎は遺構出土を示す）

第３章　発掘調査

１　調査の方法と調査結果の概要

今回の試掘調査は、遺跡の概要を把握することに主眼をおいた。そのため、トレンチは比較的粗く設定し、水田一枚について１ヶ所のトレンチを基本とした。

試掘調査は、耕作土から遺構検出面までは重機によって剥ぎ取り、検出面はジョレンを使用して遺構検出につとめた。遺構検出面の清掃が完了した時点で、記録写真を撮影し、その後に断面図の作成、トレンチ位置図の測量の順番で作業をおこなった。また、遺構の検出された場合は、その遺構のプランを測量するに留め、遺構内の調査は実施していない。土層断面図は1/20の縮尺で測量を行い、トレンチ位置図は1/100で断面図測量の基準点を記録し、トレンチ位置図は1/200の縮尺を基本として測量している。

出土遺物の取り上げはトレンチごとに行い、出土層位については記録していない。また現場でのレベルは工事用に測量してあったレベルを使用した。

遺物を整理する際には、遺物台帳を作成し、各遺物には遺跡の略称（神送り遺跡－ＫＯＲ、神送り南遺跡－ＫＲＭ）及び遺物番号、出土トレンチ番号を注記した。現場での写真撮影には35㎜一眼レフカメラを使用して、モノクロームネガフィルムとカラーポジフィルムを用いた。遺物写真は35㎜一眼レフカメラを使用して、カラーポジフィルムを使用した。

今回の試掘調査によって出土した遺構・遺物の概要は巻末の報告書抄録に記載している。

第４章　試掘調査の結果

１　神送り遺跡

この遺跡は中央自動車道の建設に先立って調査がされ、３基の平安時代後期の住居址が出土している。また、平成３年には城前の交差点の改修に伴って発掘調査が実施され、やはり平安時代後半期の住居址が２基出土している。

今回の試掘調査は、昭和47年に中央自動車道の建設に伴うほ場整備事業を実施した地点の調査となり、地下にどれくらい遺構が残存しているのかが注目された。調査に結果、遺跡の東側については大きく削られて遺構は破壊されていたが、中央道に向かうにしたがって遺構面が比較的残されている傾向がわかった。しかし、今回の調査では明確な遺構は検出されず、第１号トレンチで土坑と考えられる落ち込みが確認されているのみである。

遺　　物

第1号トレンチからは内黒土器や須恵器甕の破片のほか、縄文時代後期の破片も１片出土している。

第2号トレンチからは内黒土器・土師器長胴甕のほか、須恵器の釜の破片も出土している。

第5号トレンチからは、小片であるが縄文土器が出土している。

第9号トレンチからは土師器長胴甕の口縁部小片が出土している。

第11号トレンチからは須恵器坏・甕の破片や土師器の破片が出土している。

２　神送り南遺跡

神送り南遺跡は、今回が初めての調査となる。神送り遺跡で述べたようにやはりほ場整備を実施しているため、破壊の程度について注目したが、神送り遺跡よりも遺存度は高いように感じられた。遺跡全体としては、遺跡北部はやや削平されていたものの遺跡南部は遺構の残りがよく、第６号トレンチでは住居址が２基切り合って検出されている。また中央自動車道よりは大きく落ち込んでおり、遺構は検出されなかった。

遺　　物

第６号トレンチからは縄文土器が出土している。

第7号トレンチからは須恵器甕の破片や、土師器長胴甕の破片、縄文時代早期の繊維土器の破片が出土している。

第５章　まとめ

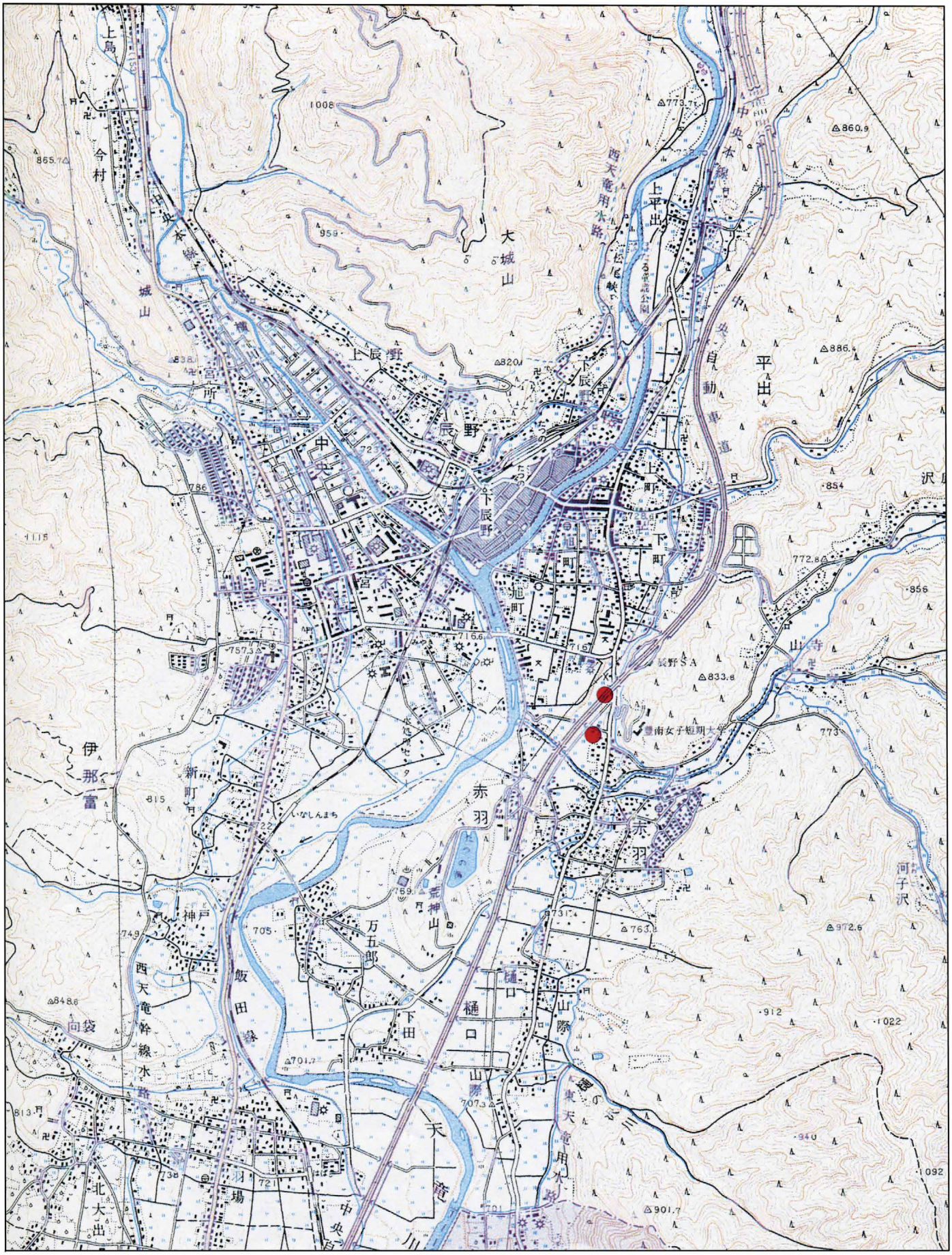
今回の調査では、両遺跡あわせて12本のトレンチを開坑することができた。この結果、予想以上に遺跡の残りがよいことが判明した。なかでも神送り南遺跡からは住居址が出土し、平安時代の集落が存在していることが判明したことは大きな成果であった。

平安時代の遺構のほかにも破片であるが、縄文時代後期の土器が出土していることも注目される。また、縄文時代早期の破片についてはこの遺跡の東に所在する中山遺跡からの流れ込みの可能性が高く、中山遺跡には同時期の遺構の存在が考えられるようになった。

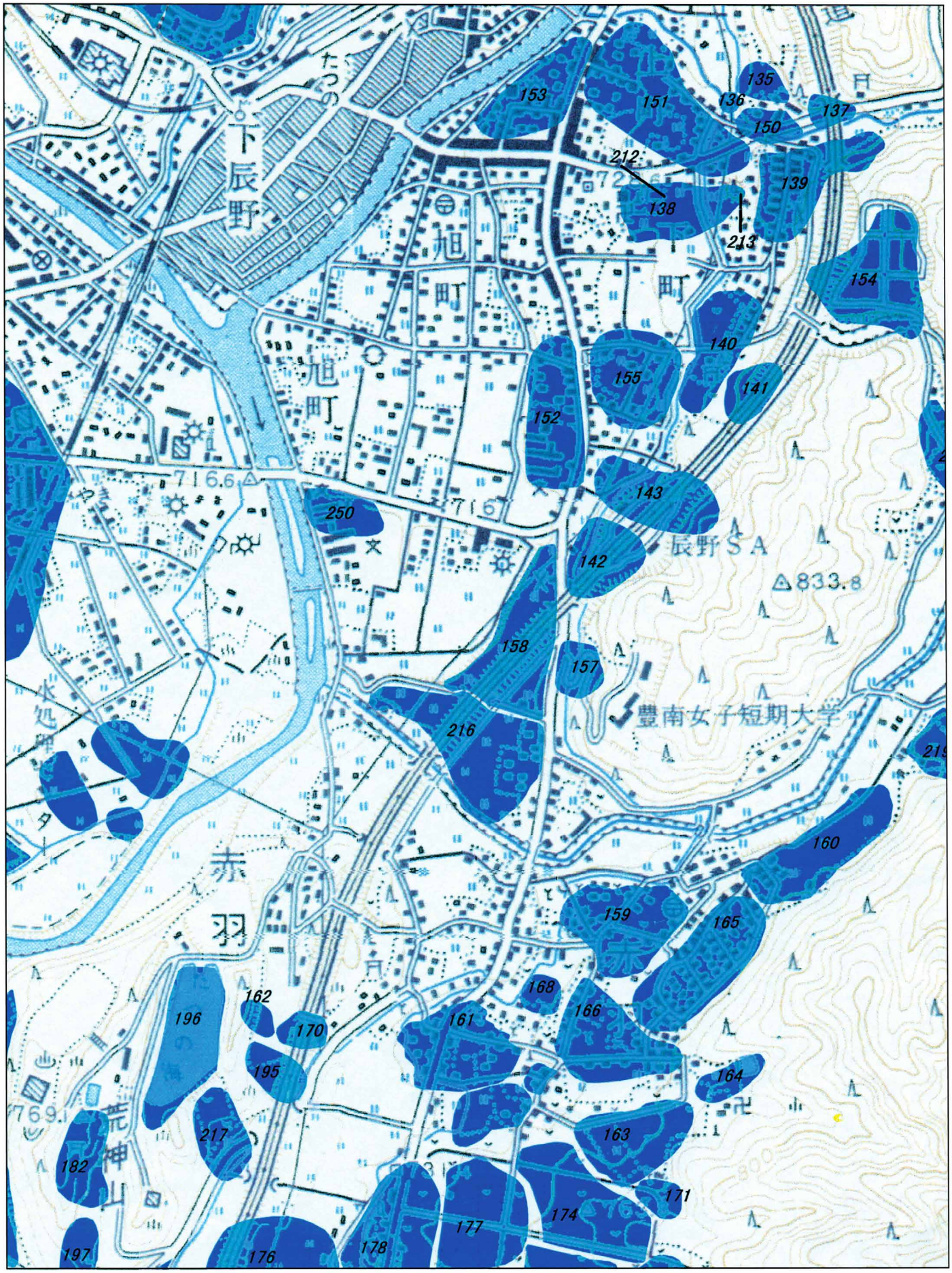
次に地形で見ると、神送り遺跡の指定範囲の東部は、今回の調査によって中山の尾根が続いていることが判明した。このため、遺跡東部については神送り遺跡の平安時代の集落の東境を想定することができよう。また、ほ場整備によって見えなくなった段丘も試掘調査によって存在が判明し、遺跡の立地としては段丘先端部に遺跡の中心があるであろうことが考えられるようになった。

神送り南遺跡は、地形的にはゆるやかに南に傾斜する遺跡で、実際には神送り遺跡とは同一の遺跡としてとらえたほうが妥当と考えられる。遺物の出土状況からすると、神送り遺跡のほうが多く、神送り南遺跡では少ない結果であったが、やはり遺跡の東端部を調査したにすぎず、遺跡の全容は把握できたとはいえない。やはり段丘先端部に遺跡の中心部が存在していると考えられる。

今後、この調査地点は埋められ、遺跡は保存されることとなったので今後の調査成果に期待したい。

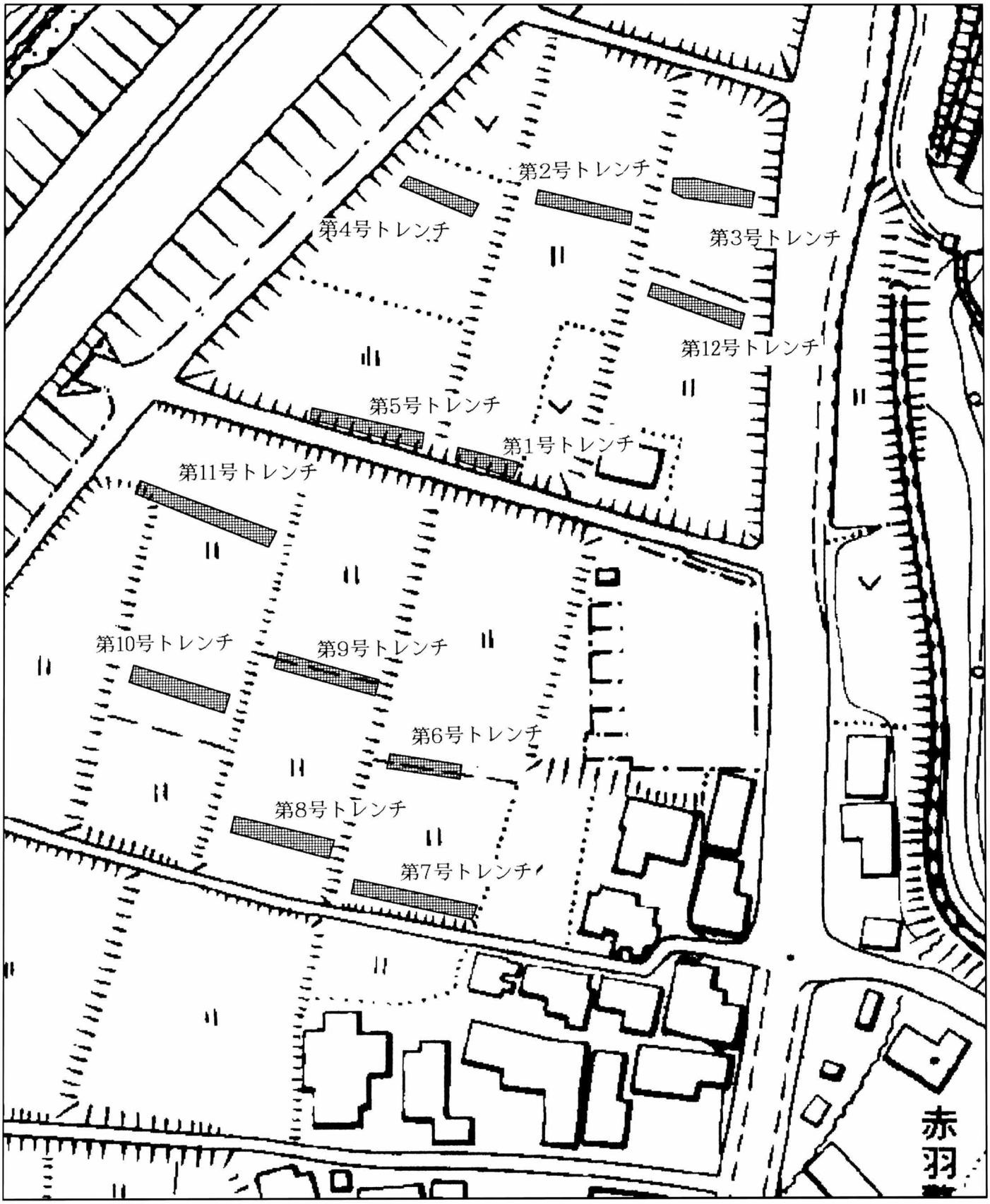


第1図 神送り・神送り南遺跡位置図

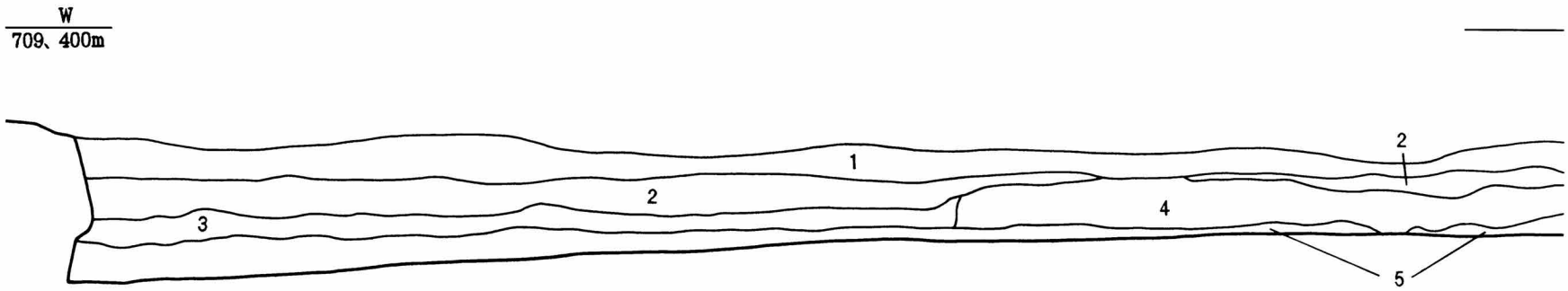


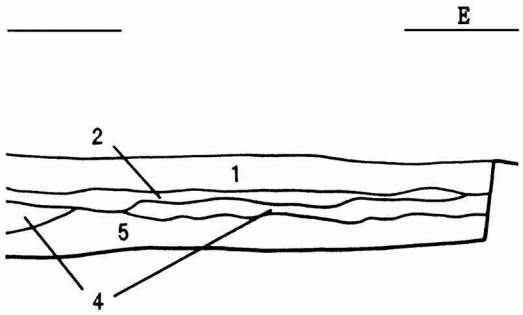
1/10,000　0　500m

第2図 周辺遺跡分布図



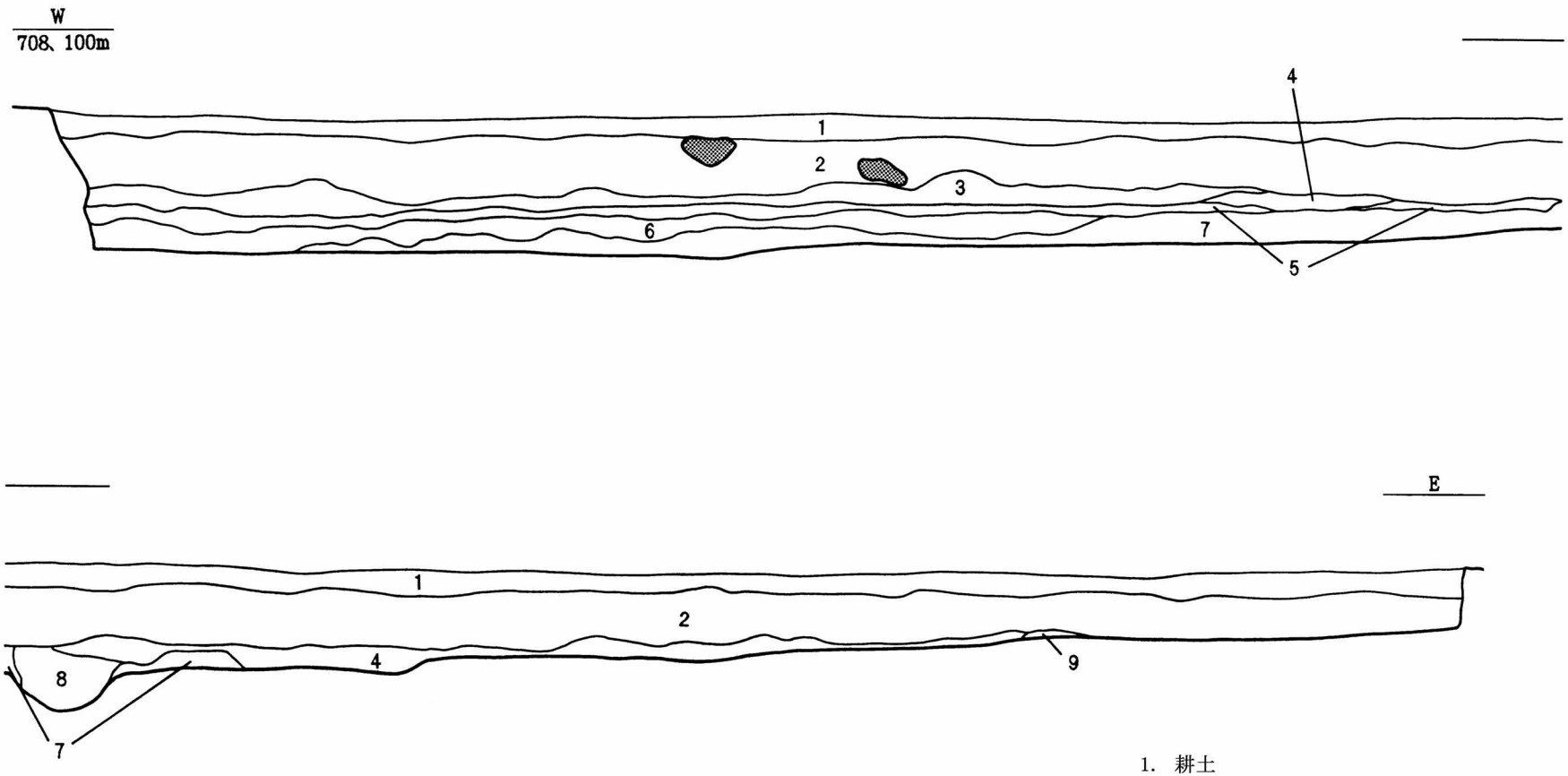
第3図 試掘調査トレンチ位置図





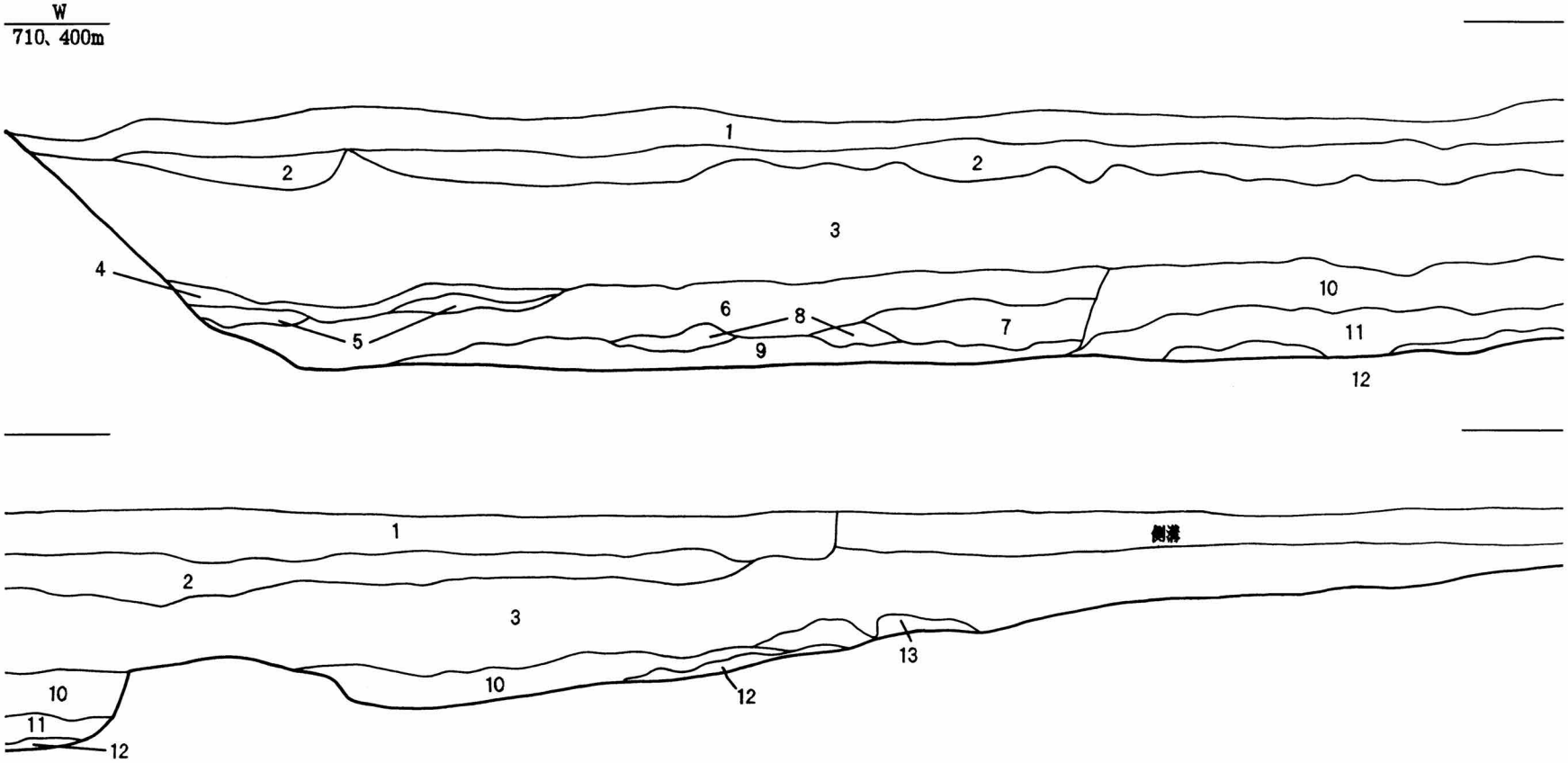
1. 耕土
2. 暗褐色粘質土
3. 基盤層
4. 暗褐色粘質土（小石・焼土粒まじる）
5. 暗褐色粘質土（黄色粘質土まじる）

第4図 第1号トレンチ土層断面図 S=1/40



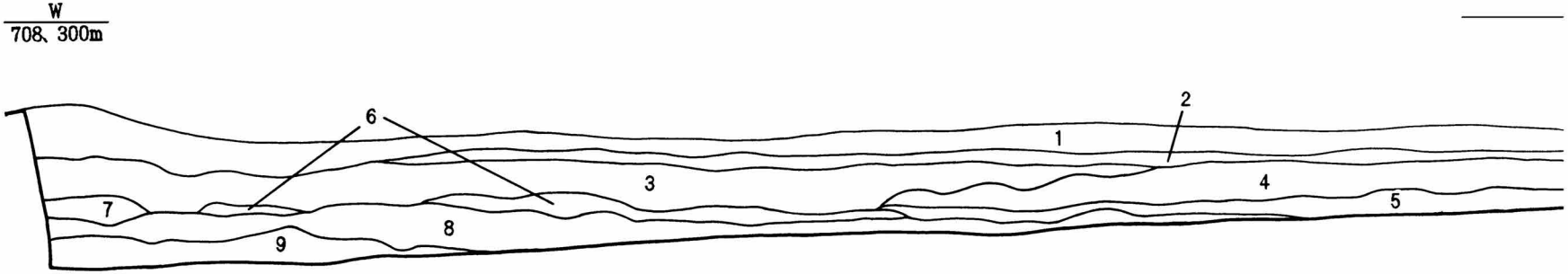
1. 耕土
2. 暗褐色土（黄色土粒多くまじる）－埋土
3. 耕土
4. 基盤層
5. 黄色土（暗灰色土まじる）
6. 暗褐色土（黒色味を帯びる）
7. 暗黄褐色土（黄色土粒まじる）
8. カクラン
9. 黄色土

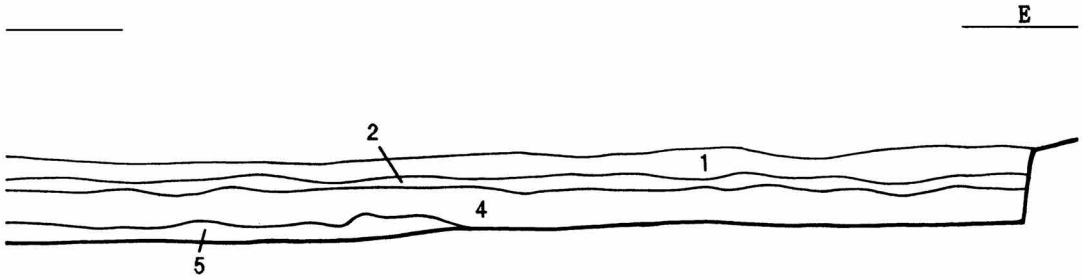
第5図 第2号トレンチ土層断面図 S=1/40



1. 耕土
2. 暗褐色土（小石少量まじり、黄色小粒まじる）
3. 埋土
4. 暗灰褐色土（黄色土粒少量まじる）
5. 黒褐色土
6. 暗褐色土（暗黄色土少量まじる）
7. 暗褐色土（やや黒味を帯びる）
8. 暗黄褐色土
9. 黄褐色土（黄色土まじる）
10. 暗褐色粘質土
11. 黒褐色粘質土（黄色土粒少量まじる）
12. 暗褐色粘質土
13. 黒褐色粘質土（暗黄色粘質土まじる）

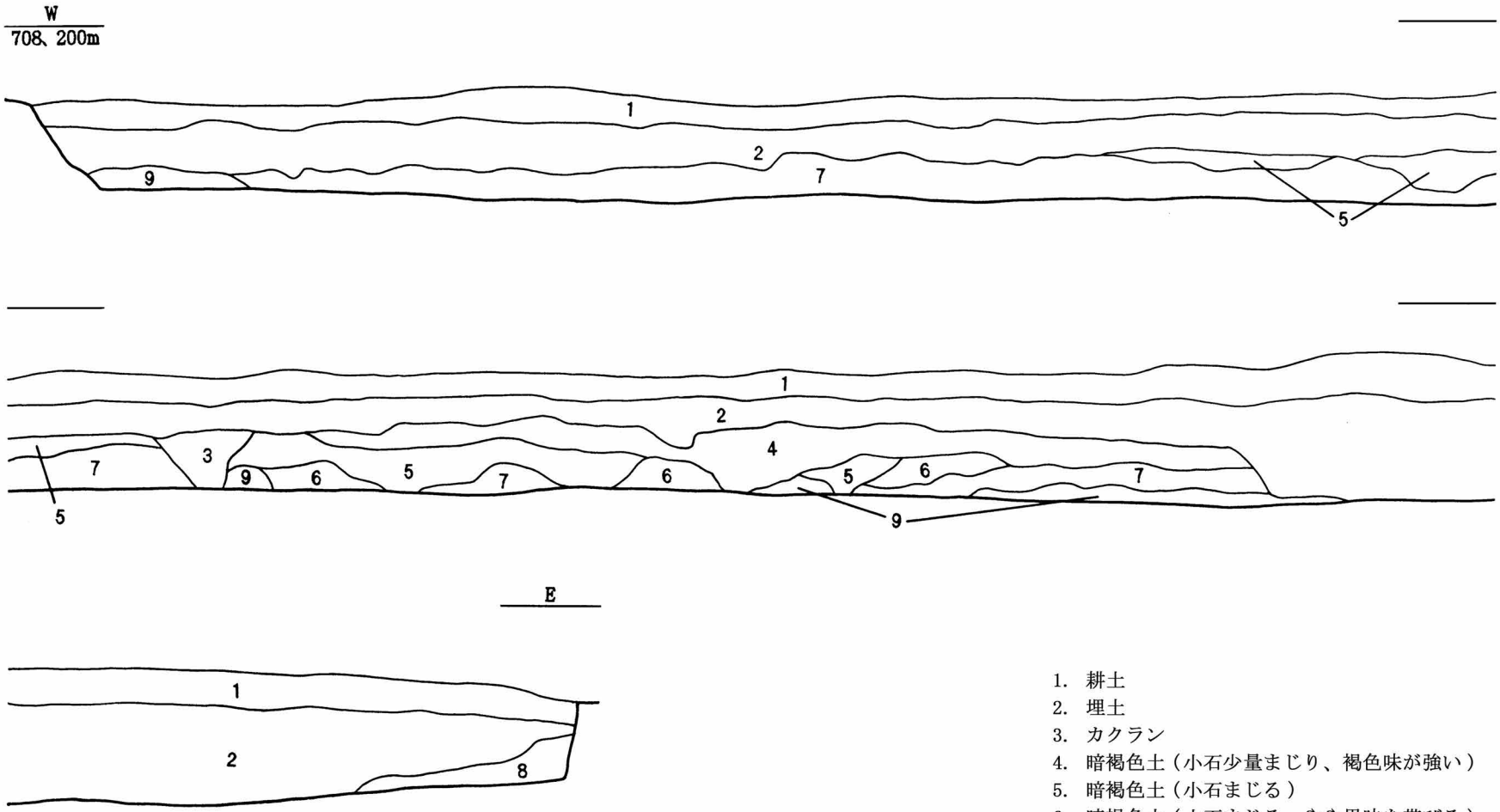
第6図 第3号トレンチ土層断面図 S=1/40





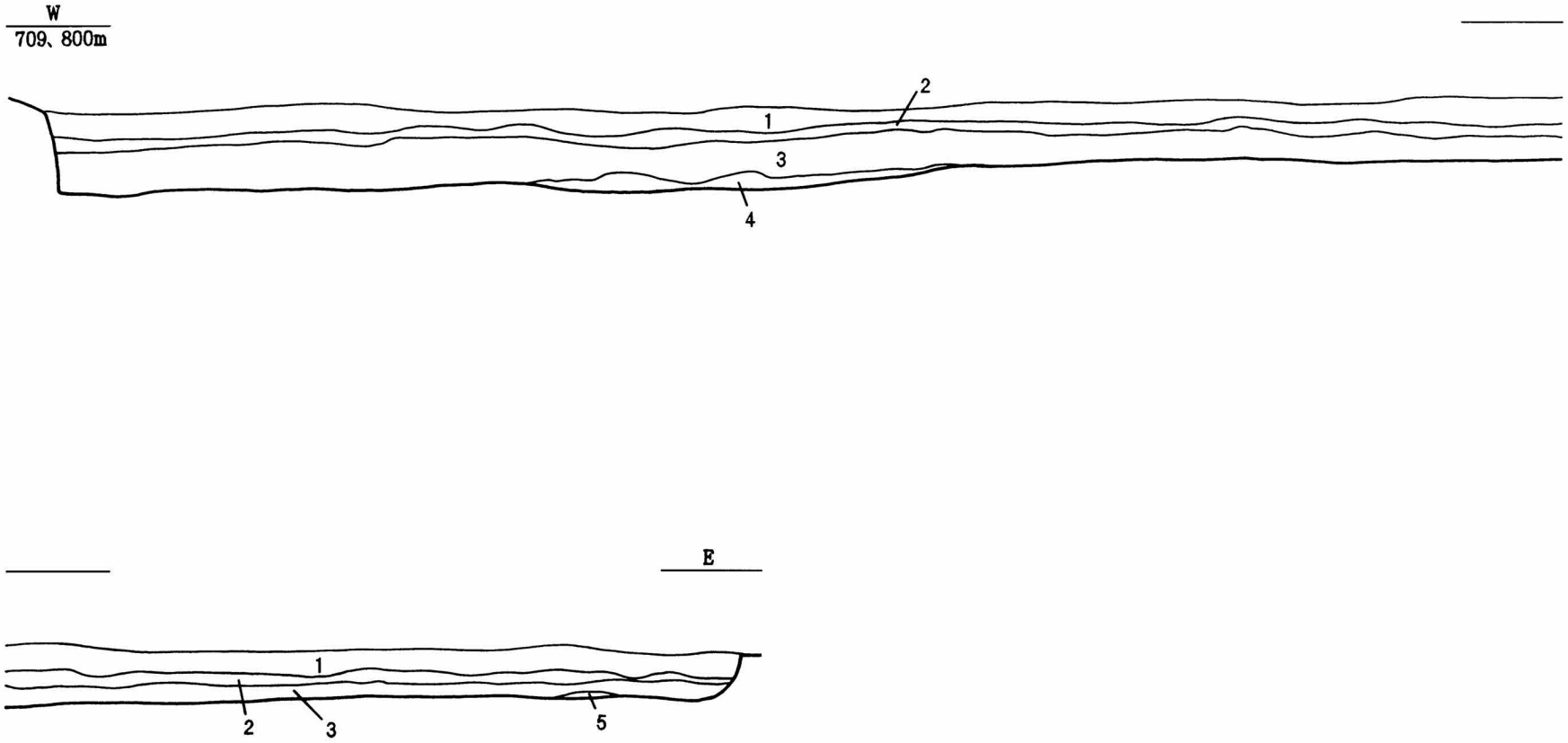
1. 耕土
2. 基盤層
3. 暗灰褐色粘質土（黄色土粒まじる）
4. 暗灰褐色粘質土（黄色土少量まじる）
5. 暗灰褐色粘質土－旧耕土
6. 暗灰褐色粘質土（鉄分やや沈着）－旧基盤層
7. 砕石
8. 暗灰褐色粘質土（鉄分沈着）
9. 暗褐色粘質土（灰色味を帯びる）

第7図 第4号トレンチ土層断面図 S=1/40



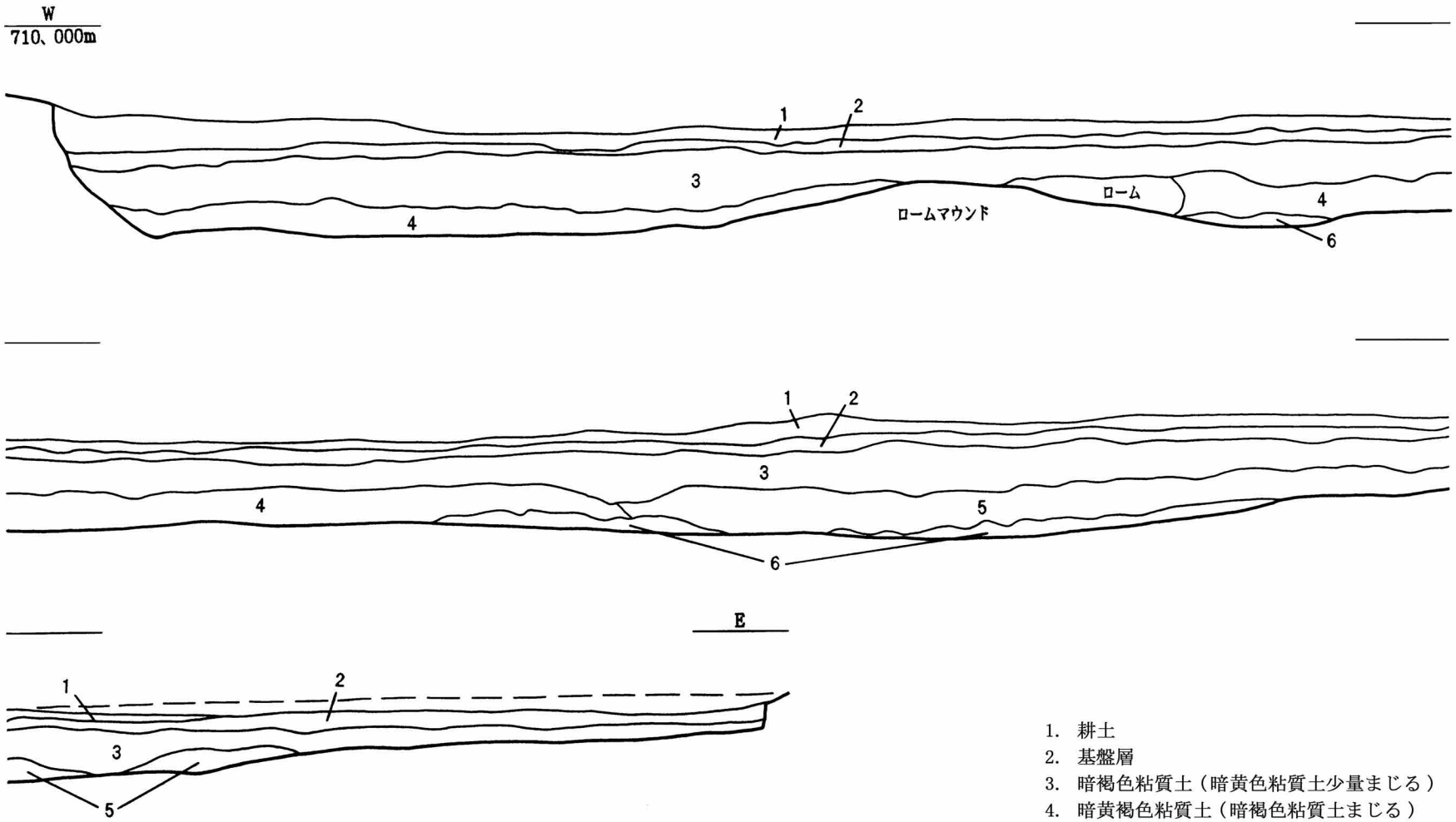
1. 耕土
2. 埋土
3. カクラン
4. 暗褐色土（小石少量まじり、褐色味が強い）
5. 暗褐色土（小石まじる）
6. 暗褐色土（小石まじる、やや黒味を帯びる）
7. 暗褐色土（小石多くまじる）
8. 暗褐色粘質土
9. 暗黄色土（褐色土まじり、小石多くまじる）

第8図 第5号トレンチ土層断面図 S=1/40



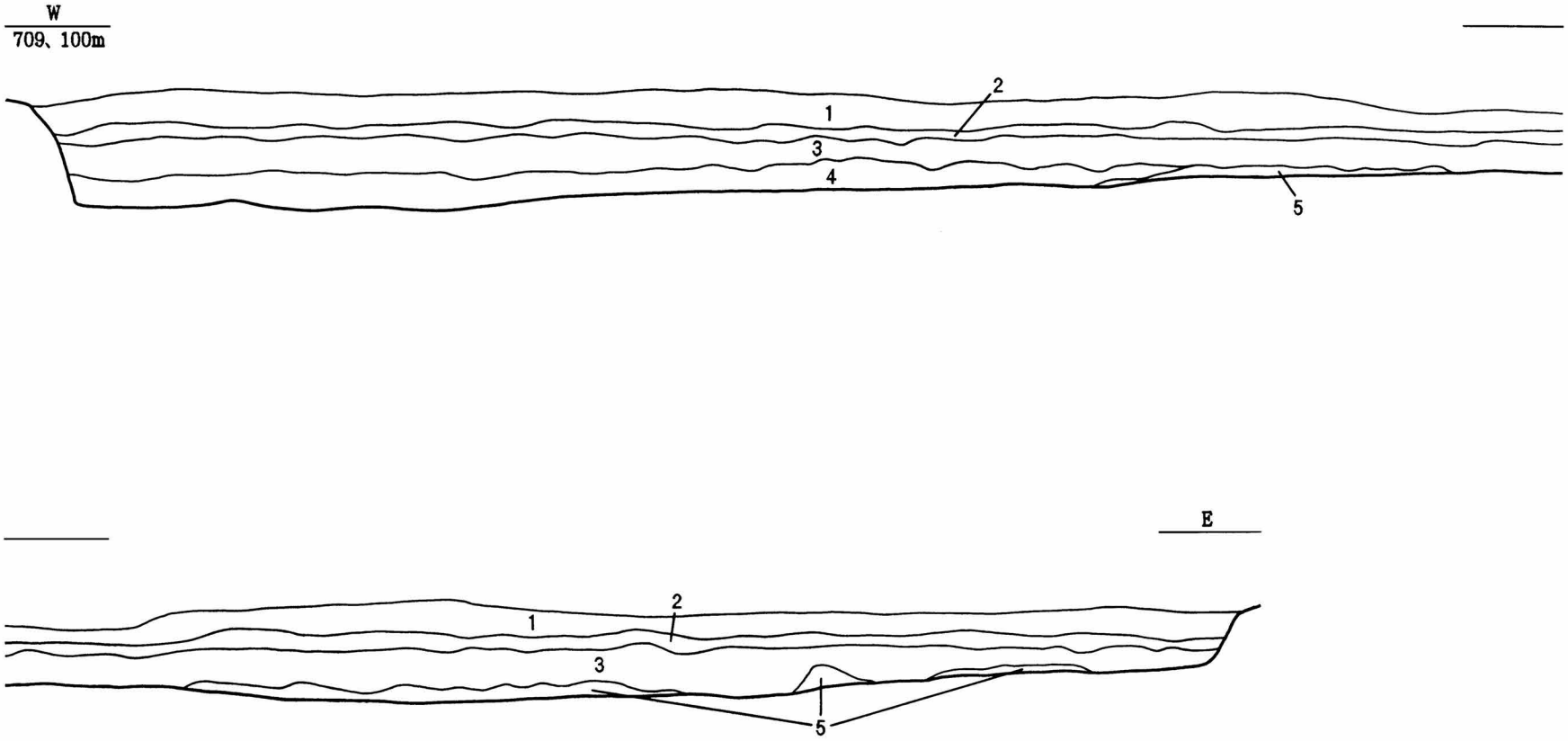
1. 耕土
2. 基盤層
3. 暗褐色粘質土（石少量まじる）
4. 暗褐色土（粘質、黄色土粒まじる）
5. 暗黄色砂質土（小石少量まじる）

第9図 第6号トレンチ土層断面図 S=1/40



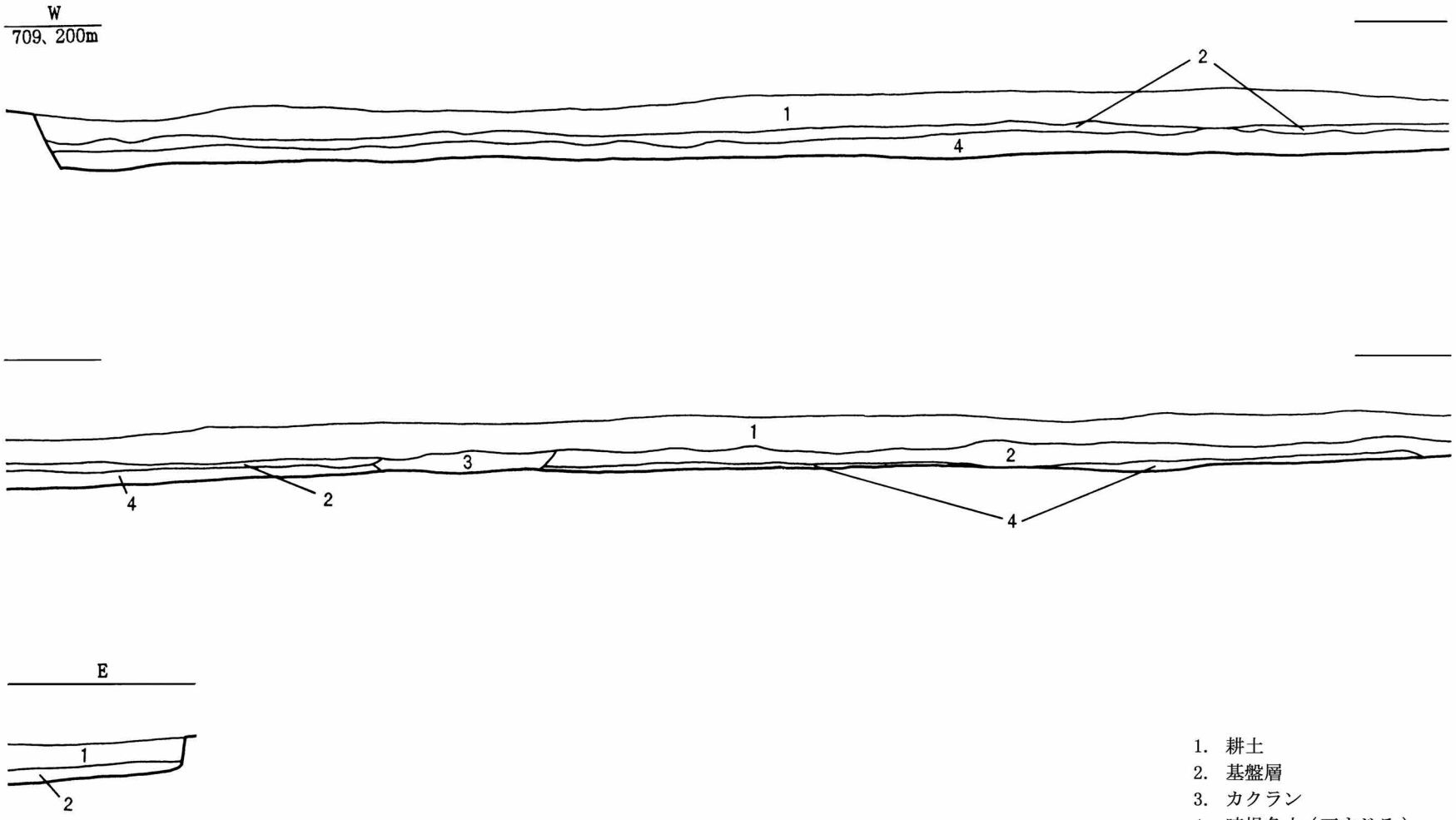
1. 耕土
2. 基盤層
3. 暗褐色粘質土（暗黄色粘質土少量まじる）
4. 暗黄褐色粘質土（暗褐色粘質土まじる）
5. 黒褐色粘質土（小石ややまじる・
   暗黄色粘土ややまじる）
6. 暗黄色粘質土（小石ややまじる）

第10図 第7号トレンチ土層断面図 S=1/40



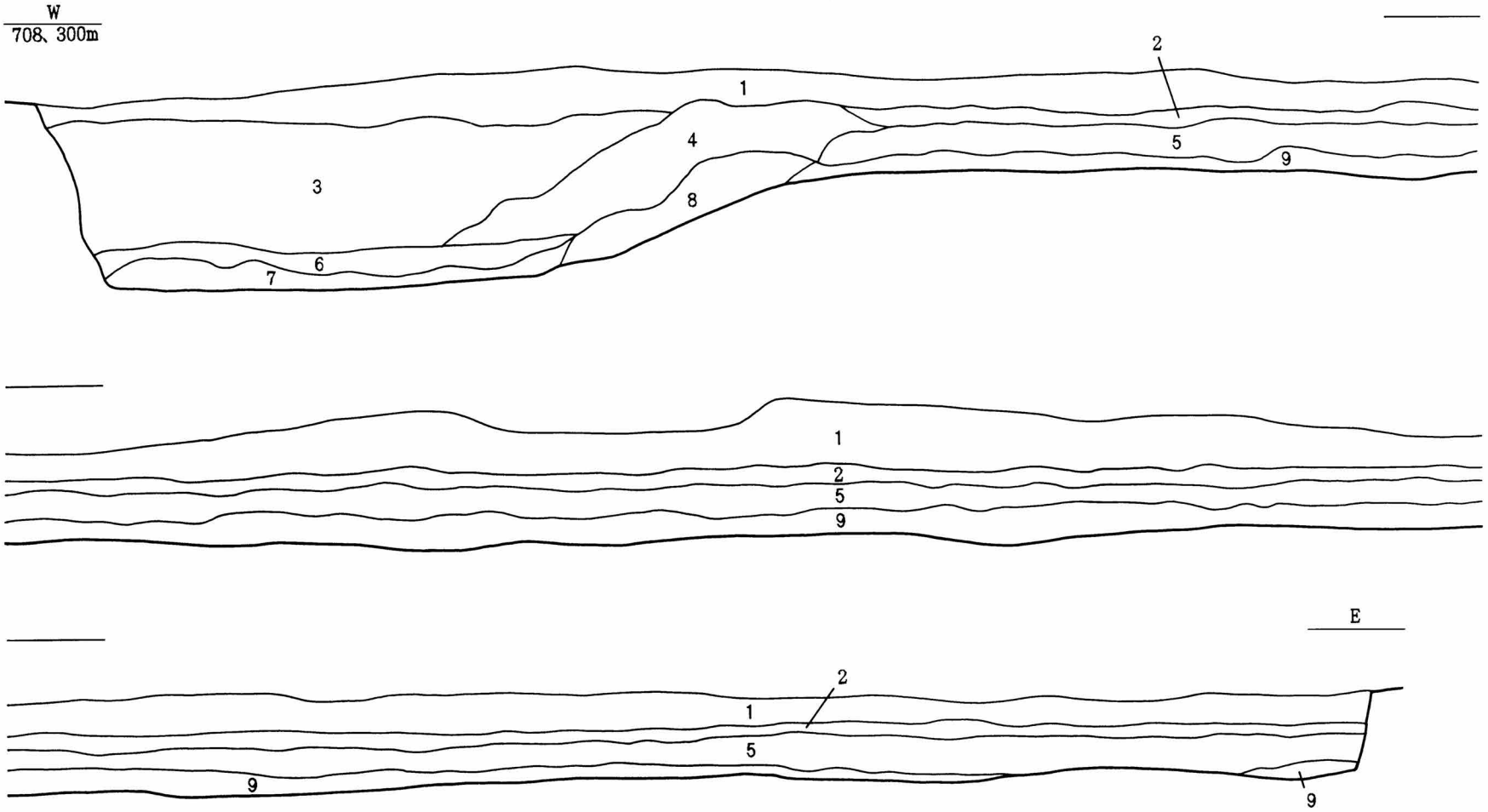
1. 耕土
2. 基盤層
3. 暗褐色土（やや粘質、小石少量まじる）
4. 暗褐色土（やや粘質、
黒味を帯びた小石少量まじる）
5. 暗黄色土（やや粘質）

第11図 第8号トレンチ土層断面図 S=1/40



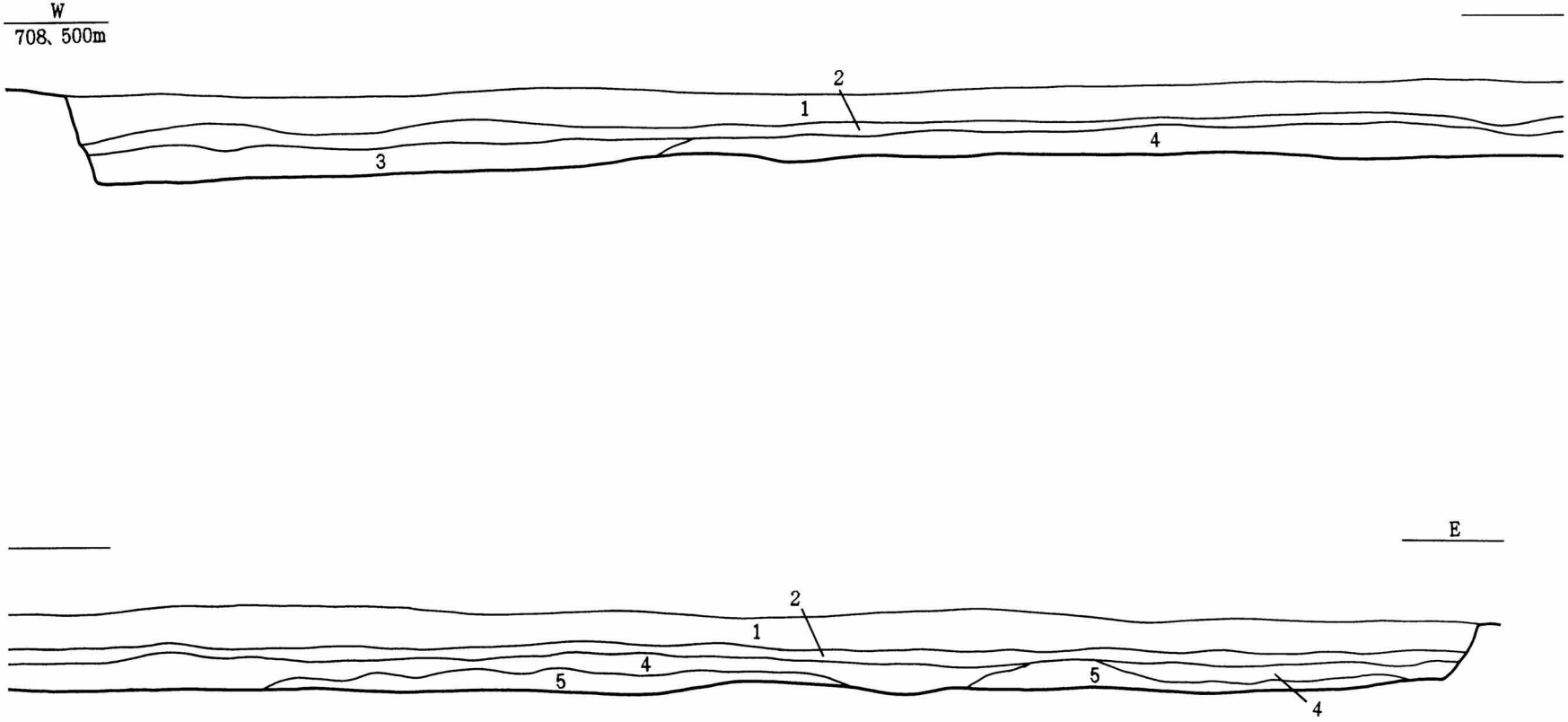
1. 耕土
2. 基盤層
3. カクラン
4. 暗褐色土（石まじる）

第12図 第9号トレンチ土層断面図 S=1/40



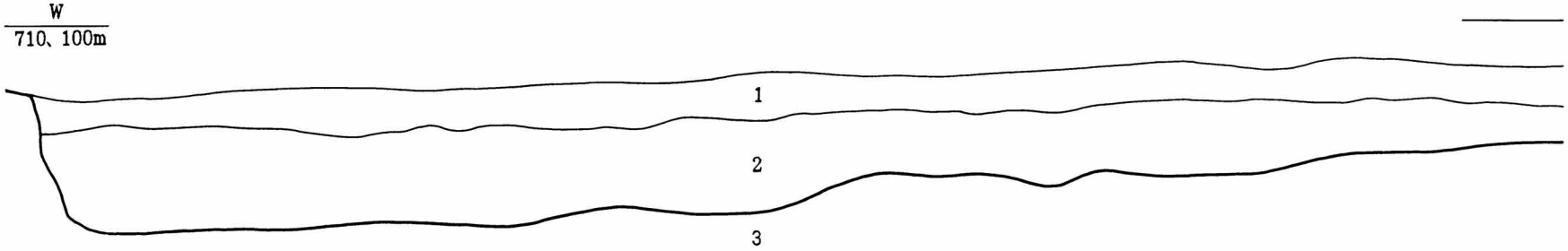
1. 耕土
2. 基盤層
3. 埋土
4. 埋土（旧表土）－土手
5. 暗褐色土（黄色土粒ややまじり、小石少量まじる）
6. 耕土
7. 暗灰色粘質土（石まじる）
8. 暗黄色砂礫土（暗褐色土まじる）
9. 暗黄褐色土（石多くまじる）

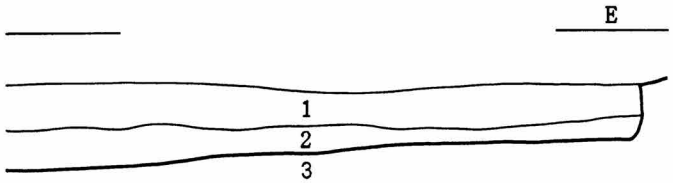
第13図 第10号トレンチ土層断面図 S=1/40



1. 耕土
2. 基盤層
3. 暗褐色土（人頭大の礫まじる）
4. 暗褐色土（石少量まじる）
5. 暗黄褐色砂礫土

第14図 第11号トレンチ土層断面図 S=1/40





1. 耕土
2. 埋土
3. 黄色土（人頭大以上の礫まじる）

第15図 第12号トレンチ土層断面図 S=1/40

図版１

遺跡全景（北東から）

遺跡全景（南西から）

試掘調査全景（北東から）

試掘調査全景（南東から）

第１号トレンチ

第２号トレンチ

第３号トレンチ

第４号トレンチ

第５号トレンチ

第６号トレンチ

第７号トレンチ

第８号トレンチ

第 9 号トレンチ

第 10 号トレンチ

第 11 号トレンチ

第 12 号トレンチ

第１号トレンチ出土遺物（3）

第２号・第３号トレンチ出土遺物

第 6 号・第 7 号トレンチ出土遺物 (1)

第 6 号・第 7 号トレンチ出土遺物 (2)

第 11 号トレンチ出土遺物（6）